



令和8年4月23日

呉市立原小学校
校長 梶本浩史

〈令和8年度 東畑中学校区研究推進計画：原小学校の挑戦〉

1. はじめに：私たちの目指す「子供たちの未来」

「研究推進計画」という言葉を聞くと、少し難しく感じられるかもしれません。しかし、これは単なる書類上の計画ではなく、原小学校の子供たちが、変化の激しい未来を自分らしく、力強く歩いていくための「航海図」です。

私たちは、子供たちがこの原小学校、そしてこの東畑の地で、どのような姿に育ってほしいかを真剣に考えています。その指針となるのが、私たちの教育目標である「賢く 優しく 逞しく」、そしてその精神を具体化する「進取・礼節・求学」の心です。私たちが目指すのは、「確かな学力と、自分と郷土に誇りをもつ子供」の育成です。

なぜ今、「確かな学力」と「誇り」の両立が必要なのか。私たちは、自尊感情こそがすべての学びの基盤であると考えています。「自分はやればできる」「地域に支えられている」という自己肯定感を土台にして初めて、子供たちは未知の課題に対して主体的に学びに向かうことができますからです。確かな学力は、子供たちが将来の夢を実現するための「武器」となり、郷土への誇りは、彼らがどこへ行っても自分を支える「根っこ」となります。

現在、原小学校の子供たちは、地域の皆様の温かい見守りの中で、明るく健やかに成長しています。しかし、その輝きをさらに確かなものにするためには、解決すべき学習上の課題も見えてきました。次は、私たちが直面している現状を冷静に分析し、新たな「授業づくり」への挑戦についてお話しします。

2. 現状の分析と「考える授業づくり」への転換

私たちは現在、子供たちの学習状況を真摯に受け止め、教育の質をさらに高めるための転換期に立っています。これまでの取組によって得られた成果と、浮き彫りになった課題を整理すると、以下のようになります。

○成果（手応えを感じている点）

- ・児童アンケートで「授業は楽しい」「よくわかる」と回答する割合が非常に高い。
- ・地域との協働体験を通じ、自分を認め、周りに感謝する心が育っている。
- ・日々の授業への前向きな参加。

△課題（今、克服すべき点）

- ・楽しさが「定着」に結びついておらず、既習事項を忘れてしまう「積み残し」がある。
- ・育まれた自信を、困難な課題に粘り強く立ち向かう「主体的な学び」へと昇華

させる。

- ・中期・後期の算数・数学において、全国平均を大きく下回る項目が見られる。
- ・「一方向」から「対話」のある授業へ転換させる。

分析の結果、学力定着の弱さの要因の一つに、教師からの一方向的な指導になりがちで、子供たちが自分の考えを深めたり、互いに練り上げたりする「対話」が不足していたことが挙げられます。単に知識を教え込むのではなく、子供たちが自ら問いをもち、互いの考えを繋ぎ合わせる「主体的・対話的で深い学び」への転換が急務と考えています。

原小学校では、これらの課題を解決するために、具体的な策をもって授業改善に挑みます。

3. 原小学校の重点施策：基礎の徹底と表現力の育成

学力の向上には、足腰となる「基礎力」と、それを自在に操り表現する「授業の質」の両輪が必要です。今年度、本校が重点的に取り組む策を紹介します。

①基礎学力向上の二大ツールと学習習慣の確立

原小学校として「積み残しをなくす」ために、以下の点に特化して取り組みます。

○百マス計算：徹底した反復により、計算の正確性とスピード、そして「集中力」の土台を作ります。

○Qubena（キュビナ）の活用：AI型教材を使い、一人一人の習熟度に合わせて「どこでつまづいているか」を瞬時に把握。効率的な復習で「わからない」を放置しません。

○これらに加え、中学校区共通の取組として、「学びのすすめ（自主学习）」を推進し、家庭での学習習慣を確かなものにします。

②「一人一発言」の授業改革：ネームプレートの有効活用

授業の質を変える鍵の一つとして、「ネームプレートの活用」を取り入れていきます。これは単に誰が発言したかを記録するものではありません。

○可視化のメカニズム：全員の反応や考えがプレートで示されることで、教師は「まだ発言できていない子」や「異なる視点を持つ子」を即座に把握できます。場合によっては意図的に発言を促します。

○繋ぐファシリテーション：教師はプレートを見ながら、ある子の意見を別の子の疑問へと意図的に繋ぎます（ブリッジング）。これにより、「発言するだけ」で終わらず、全員が授業に参加し、対話を通して考えを深める「一人一発言」の環境が実現します。

これらの土台の上に、地域と連携した豊かな人間性の育成を積み上げていきます。

4. 地域と共に育む「誇り」と「礼節」

子供たちの豊かな人間性は、学校の中だけで育つものではありません。東畑中学校校区が大切にしているのは、「礼節」を重んじる心です。日々の生活の中での「立腰（りつよう：腰を立てて座る）」「黙想」といった指導を通じ、心を落ち着け、相手を敬う姿勢を養っていきます。

私たちは、「感謝と貢献の相互作用」で育つ自尊感情を「学びの基盤」とし、地域社会を「学びの場」と捉え、以下のサイクルを回していきます。

- ①体験： 地域の人と関わり、協働して何かをやりきる。
- ②評価： 周囲から適切に、肯定的に認められる。
- ③自覚： 自分のよさや可能性に気づき、地域への感謝と貢献の心が生まれる。

また、小中一貫の連携アクションとして、中学校区全体で9年間を見据えた具体的な交流を計画的に実施していきます。

- * 7月30日・31日「里帰り学習」： 東畑中学校の1年生が、制服に身を包みそれぞれの母校に帰ってきます。かつての学び舎で、小学校教員とともに補充学習をする姿は、郷土への誇りと「感謝・貢献」を体現する象徴的な取組と考えています。
- * 11月9日「小中合同クリーン活動」： 中学生と共に地域を清掃し、自分たちの手で街を美しくする達成感を共有します。
- * 1月28日「入学準備説明会」： 6年生の保護者を対象に、中学校生活への円滑な接続を支援します。

これらの活動を通じ、子供たちは「主体性・感謝・貢献」の精神を学び、地域の一員としての自覚を深めていきます。

5. おわりに： 保護者・地域の皆様へ

令和8年度、原小学校は新たな挑戦を続けます。本計画の主役は子供たちですが、その挑戦を支えるのは、私たち教職員であり、何より保護者・地域の皆様という「教育のパートナー」です。

子供たちが「自分のよさ」に気づき、確かな学力という武器と、自信をもってこの東畑から羽ばたいていけるよう、私たちは全力を尽くします。授業での真剣な眼差し、地域での礼儀正しい挨拶、行事での粘り強い頑張り、その一つ一つを、学校・家庭・地域が手を取り合って見守り、認めていければと願っております。

原小学校の挑戦に、引き続き温かいご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。共に、子供たちの輝く未来を創っていきましょう。